

# 宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成23年10月～12月期

## 目 次

1. 県下産業全体の景況 .....	2
(1) 主要景況項目のあらまし .....	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし .....	3
(3) 今後の見通しについて .....	4
2. 県下産業別の景況 .....	5
(1) 製造業の動向 .....	5
(2) 建設業の動向 .....	8
(3) 小売業の動向 .....	11
(4) サービス業の動向 .....	14

平成24年1月

宮城県商工会連合会

# 中小企業景況調査報告書

平成 23 年 10 月～12 月期

## [調査要領]

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区  
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、多賀城・七ヶ浜、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 146 企業

### 2. 調査対象期間

平成 23 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 23 年 11 月 15 日とした。

### 3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

### 4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	34
建 設 業	24
小 売 業	43
サービス業	45
合 計	146

### 5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

# 1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 23 年 10 月～12 月)の調査においては、東日本大震災からの回復基調が足踏み状態となり、産業全体の業況D I は、前期より 5.7 ポイント悪化し△21.6 (前期△15.9) となった。

製造業は、業況D I は△26.6 (前期△27.2) と小幅ながら 0.6 ポイント改善し、全国値を 4.4 ポイント下回っているものの、売上額や採算D I が全国とのマイナス幅を縮小しており、震災からの回復感が若干感じられるようになった。

建設業は全国的には停滞気味に推移するなか、本県は震災の復旧工事が好調であり完成工事額D I を改善し続け、業況D I は 24.9 (前期 16.0) と 8.9 ポイント上昇し、全国値を 46.1 ポイント上回った。

小売業は、震災後の生活関連消費財への需要が一巡し、業況D I は△31.7 (前期△2.5) と 29.2 ポイント悪化したものの、全国値を 13.3 ポイント上回った。

サービス業は売上が 11.8 ポイント悪化したのが、採算は 14.9 ポイント改善し、業況D I も△33.3(前期△38.1)と 4.8 ポイント改善し、全国値を 1.8 ポイント上回った。

## (1) 主要景況項目のあらまし

### ① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D I は、製造業においては 8.9 ポイント、建設業は 9.8 ポイント改善し、反面、小売業が 30.2 ポイント、サービス業は 11.8 ポイント悪化し、全産業D I としては△21.2 (前期△11.8) と 9.4 ポイント悪化した。

### ② 採算の状況

採算D I は、製造業において 5.8 ポイント、建設業が 17.4 ポイント、サービス業は 14.9 ポイント改善したが、小売業は 10.0 ポイント悪化し、全産業D I としては△23.1 (前期△28.7) と 5.6 ポイント改善した。

### ③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業は 30.3%で前期と比較し 9.7 ポイント、建設業は 20.8%で 4.8 ポイント、小売業は 14.0%で 2.1 ポイントそれぞれ増加し、サービス業だけは 17.8%で 1.8 ポイント減少した。

## (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

### ① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事額）DIは、宮城の建設業が45.8（前期36.0）と拡大基調を続け、全国値を63.1ポイントと大幅に上回った。宮城の小売業は△32.6（前期△2.4）となり30.2ポイント悪化させたが、全国値を10.3ポイント上回った。

反面、宮城の製造業は△20.5（前期△29.5）となり8.9ポイント改善したが全国値を1.6ポイント下回り、サービス業も宮城は△46.6（前期△34.8）と11.8ポイント悪化し全国値を11.4ポイント下回った。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・DI値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 18.3	△ 18.9	△ 21.6	△ 22.8	△ 29.4	△ 20.5
建 設 業	△ 21.8	△ 17.3	△ 2.0	3.3	36.0	45.8
小 売 業	△ 40.0	△ 42.9	△ 36.2	△ 42.2	△ 2.4	△ 32.6
サービス業	△ 33.8	△ 35.2	△ 28.2	△ 34.3	△ 34.8	△ 46.6

### ② 採 算

採算DIは、宮城の建設業が17.4（前期0.0）と17.4ポイント改善し全国値を46.5ポイント上回り、小売業も△26.3（前期△16.3）と10.0ポイント悪化したが全国値を17.2ポイント上回り、サービス業も△34.1（前期△49.0）と14.9ポイント悪化した。全国値を3.5ポイント上回った。

反面、宮城の製造業は△32.4（前期△38.2）と5.8ポイント改善したものの全国値を5.0ポイント下回った。

表二 採算の状況（前年同期比・DI値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 27.4	△ 27.4	△ 28.8	△ 30.0	△ 38.2	△ 32.4
建 設 業	△ 35.9	△ 29.1	△ 23.3	△ 13.6	0.0	17.4
小 売 業	△ 43.1	△ 43.5	△ 41.8	△ 44.3	△ 16.3	△ 26.3
サービス業	△ 38.4	△ 37.6	△ 34.8	△ 35.7	△ 49.0	△ 34.1

### (3) 今後の見通しについて

#### ① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）D I の来期見通しは、今期D I を改善させた建設業が 20.7 ポイント、製造業が 12.9 ポイント悪化すると予測され、今期D I を悪化させた小売業は 1.6 ポイント、サービス業が 15.4 ポイント改善すると予測された。

採算D I の来期見通しについては建設業が 17.4 ポイント悪化すると予測されたが、その他の産業は、製造業 1.2 ポイント、小売業 1.9 ポイント、サービス業 6.8 ポイント改善すると予測された。

#### ② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額（完成工事額）D I については、全産業ともに全国の予測値の変動幅が小幅であるのに対し、宮城は震災復旧の影響からか、全産業ともに変動幅が大きかった。産業別には宮城の建設業が 50.6 ポイント、小売業が 11.8 ポイント、サービス業が 3.2 ポイント全国を上回るが、製造業は 9.5 ポイント全国を下回る結果となった。

採算については、全国・宮城の各産業の予測値は宮城の建設業を除き、変動幅は小幅であり、宮城の予測値は製造業を除き全国を上回ると予測された。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 18.9	△ 23.9	△ 20.5	△ 33.4
建 設 業	△ 17.3	△ 25.5	45.8	25.1
小 売 業	△ 42.9	△ 42.8	△ 32.6	△ 31.0
サービス業	△ 35.2	△ 34.4	△ 46.6	△ 31.2

表－4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 27.4	△ 26.3	△ 32.4	△ 31.2
建 設 業	△ 29.1	△ 30.1	17.4	0.0
小 売 業	△ 43.5	△ 41.1	△ 26.3	△ 24.4
サービス業	△ 37.6	△ 33.1	△ 34.1	△ 27.3

## 2. 県下産業別の景況

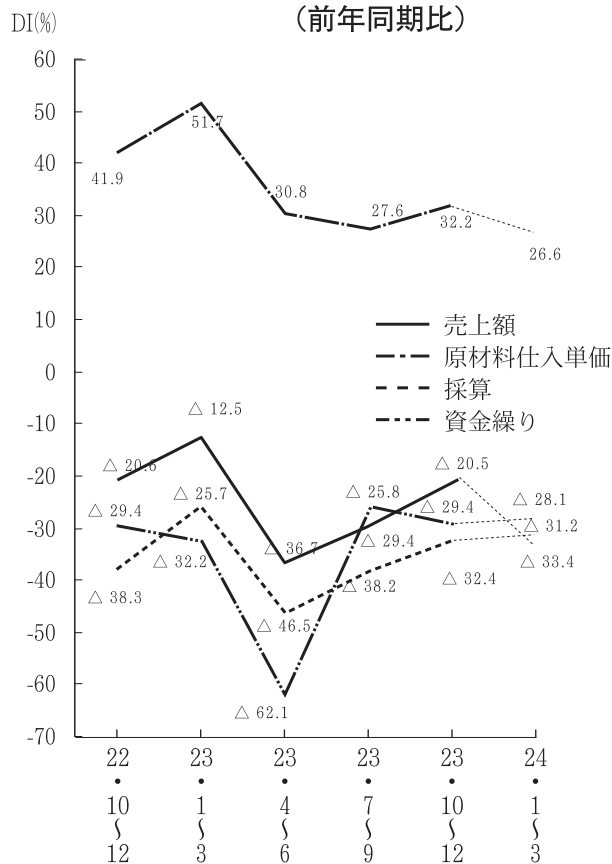
### (1) 製造業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上（加工）額D Iは、今期△20.5（前期△29.4）となり8.9ポイント、採算D Iも△32.4（前期△38.2）と5.8ポイント改善した。

資金繰りD Iは△29.4（前期△25.8）と前期比3.6ポイント、原材料仕入単価も32.2（前期27.6）と4.6ポイント悪化した。

図1-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



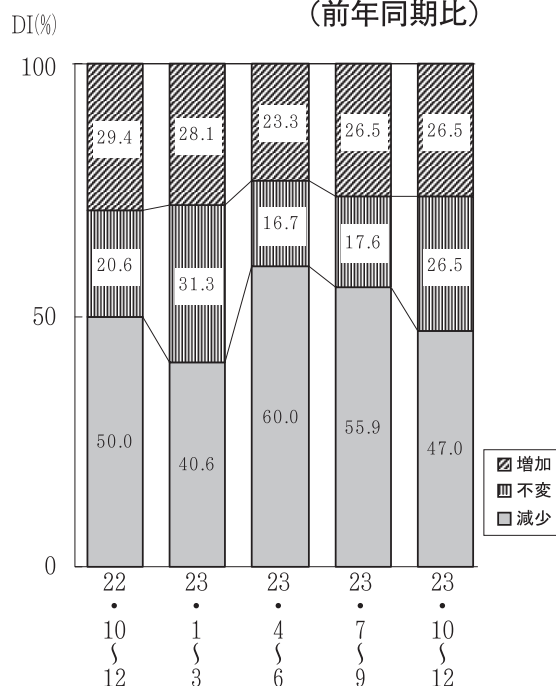
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、前期同様全体の26.5%で、「減少・悪化」と回答した企業は47.0%（前期55.9%）と前期比8.9ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは△20.5（前期△29.4）となり前期比8.9ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況  
(前年同期比)

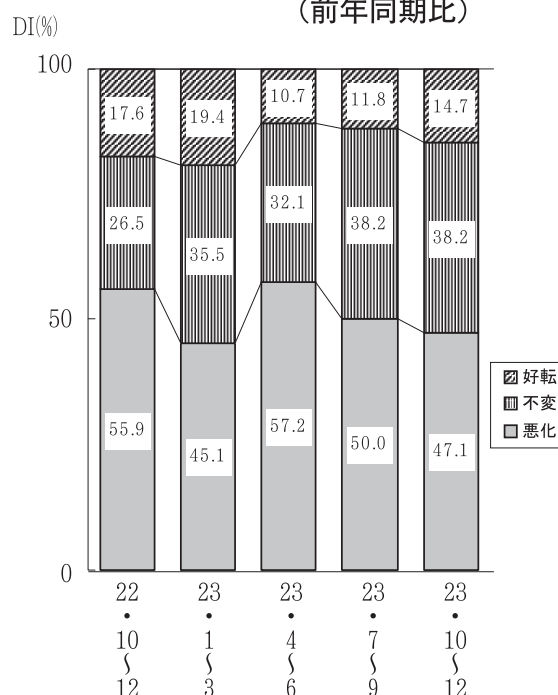


### (b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の14.7%(前期11.8%)で2.9ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は47.1%(前期50.0%)で2.9ポイント減少した。

その結果、採算DIは△32.4(前期△38.2)となり5.8ポイント改善した。

図1-3 採算の状況  
(前年同期比)



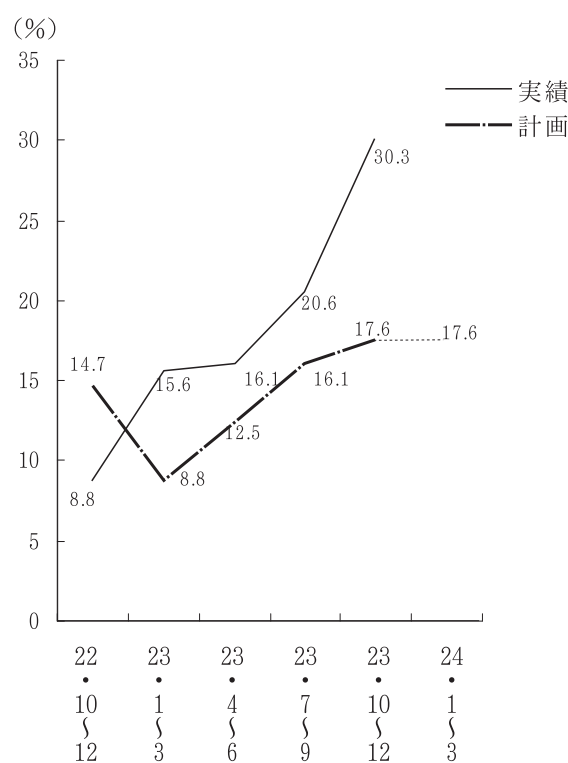
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の30.3%(前期20.6%)で9.7ポイント増加した。

その設備内容は生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の17.6%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具となっている。

図1-4 設備投資の状況

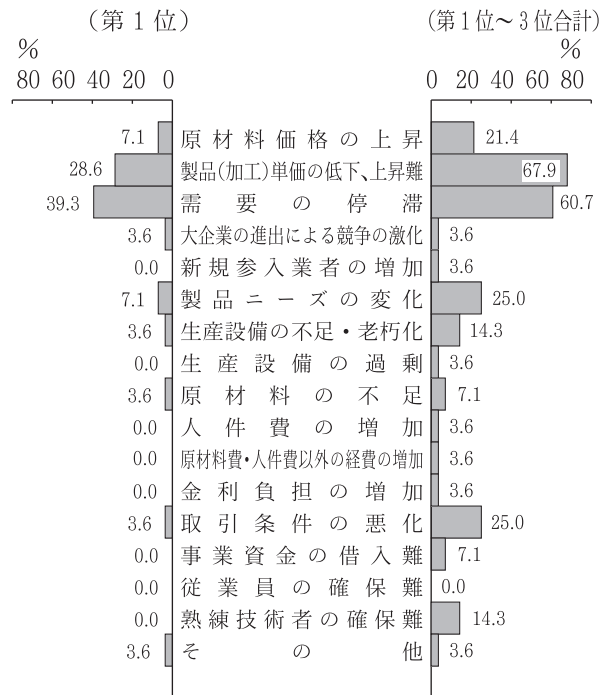


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(39.3%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(28.6%)、そして「製品ニーズの変化」と「原材料価格の上昇」が7.1%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(67.9%(複数回答以下同じ))、次いで「需要の停滞」(60.7%)、そして「製品ニーズの変化」と「取引条件の悪化」が25.0%と同率で続いた。

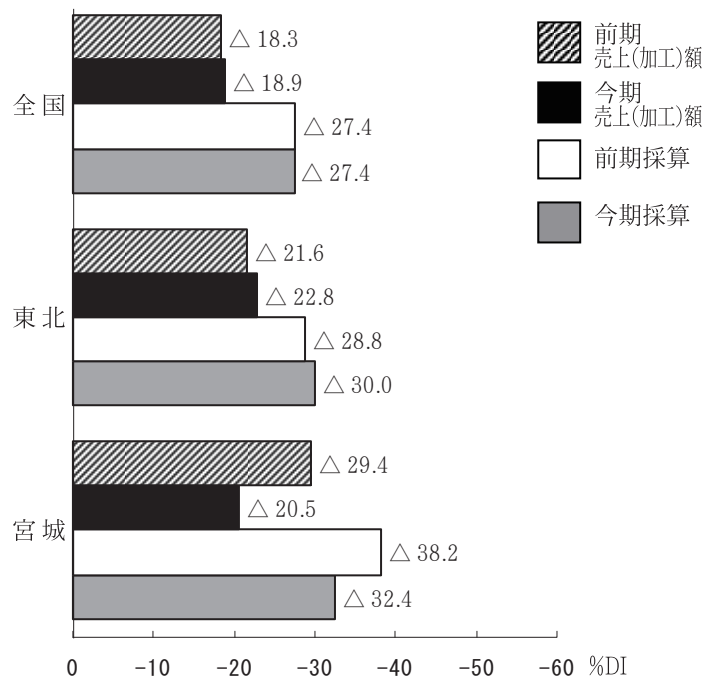
図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

円高やヨーロッパの金融不安、タイの大洪水など懸念材料があるなか、全国値は足踏み状況となったが、宮城は売上額、採算ともにDIを改善させ、全国、東北とのバラツキが縮小し、また、設備投資も活発化するなど、東日本大震災後の回復感が遅れ気味ながら窺えるようになった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較





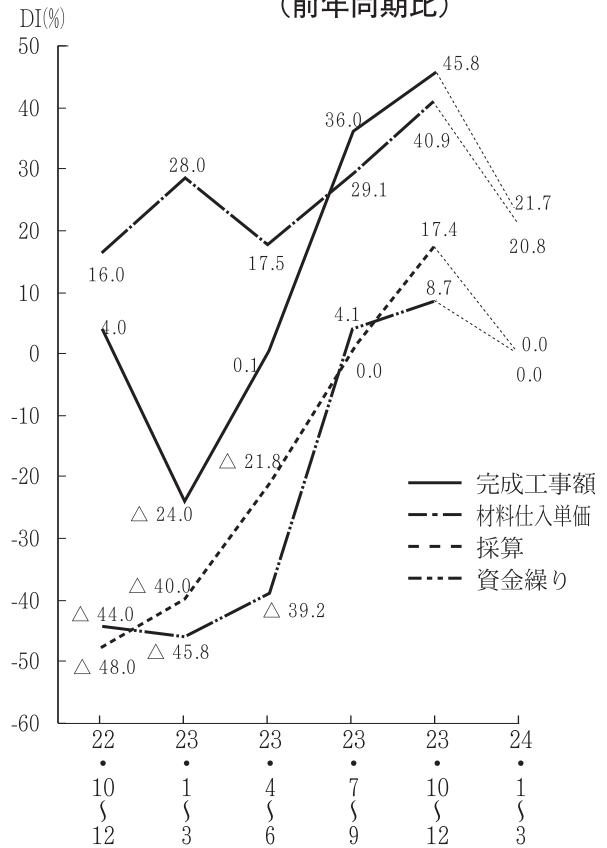
## (2) 建設業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは45.8（前期36.0）で9.8ポイント、採算D Iも17.4（前期0.0）と17.4ポイント、資金繰りD Iも8.7（前期4.1）と4.6ポイント改善した。

しかし材料仕入単価D Iは40.9（前期29.1）と11.8ポイント悪化し懸念材料となっている。

図2-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



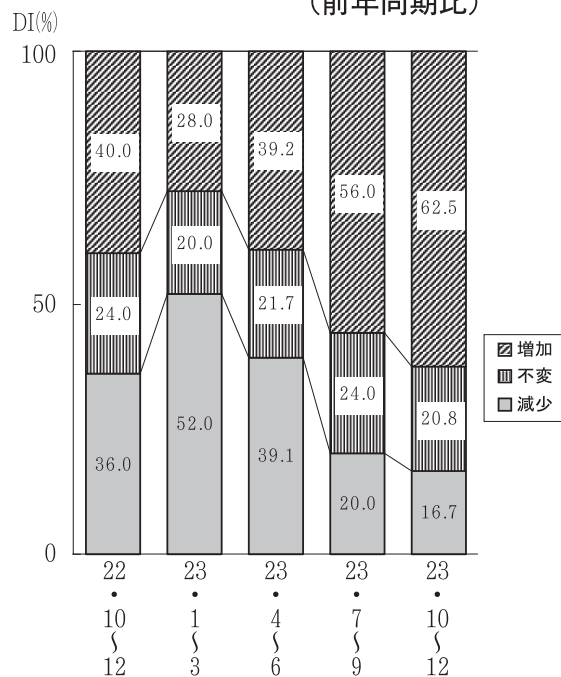
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の62.5%（前期56.0%）であり、6.5ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は16.7%（前期20.0%）と3.3ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは45.8（前期36.0）と9.8ポイント向上した。

図2-2 完成工事額の状況  
(前年同期比)

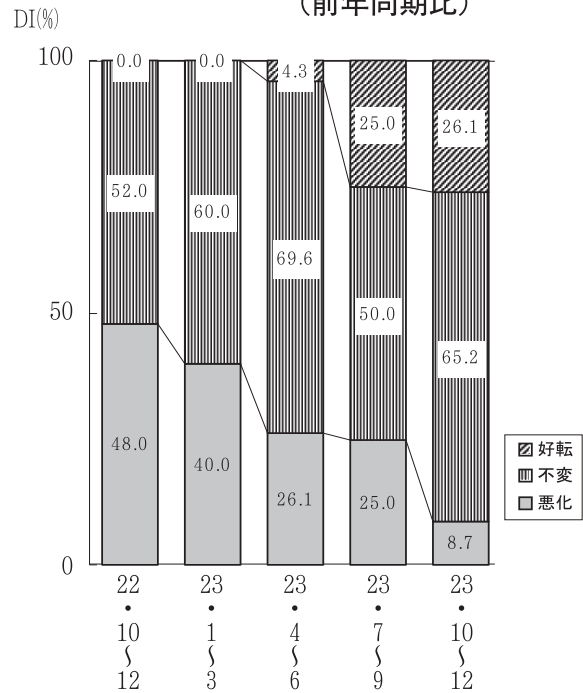


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の26.1%（前期25.0%）であり1.1ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の8.7%（前期25.0%）であり、16.3ポイント減少した。

その結果、採算DIは17.4（前期0.0）となり、前期比17.4ポイント向上した。

図2-3 採算の状況  
(前年同期比)



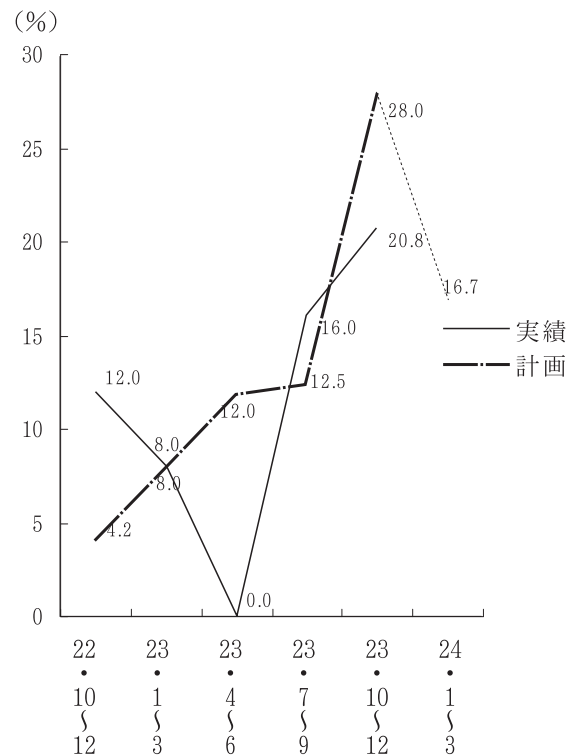
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の20.8%（前期16.0%）で4.8ポイント増加した。

その設備内容は建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の16.7%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他となっている。

図2-4 設備投資の状況

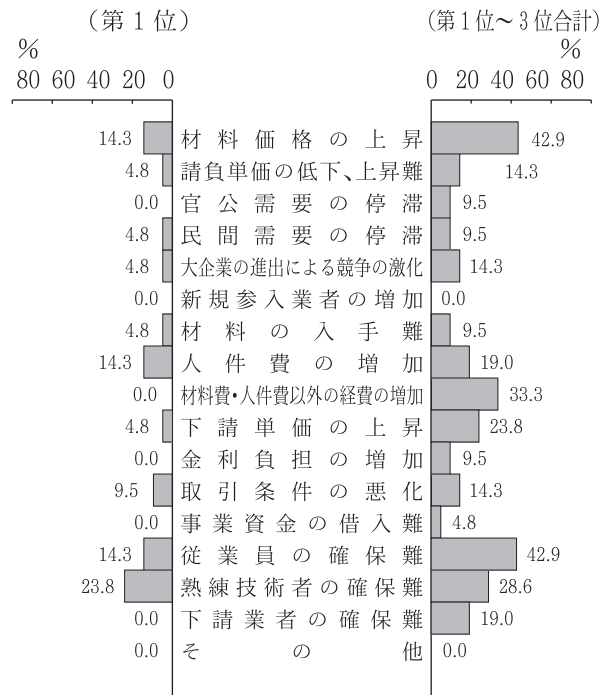


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「熟練技術者の確保難」(23.8%) 次いで「材料価格の上昇」、「従業員の確保難」、「人件費の増加」が同率の14.3%となり、そして「取引条件の悪化」(9.5%) が続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」と「従業員の確保難」が42.9% (複数回答以下同じ) と同率となり、次いで「材料費・人件費以外の経費の増加」(33.3%)、「熟練技術者の確保難」(28.6%)、「下請け単価の上昇」(23.8%) と続いた。

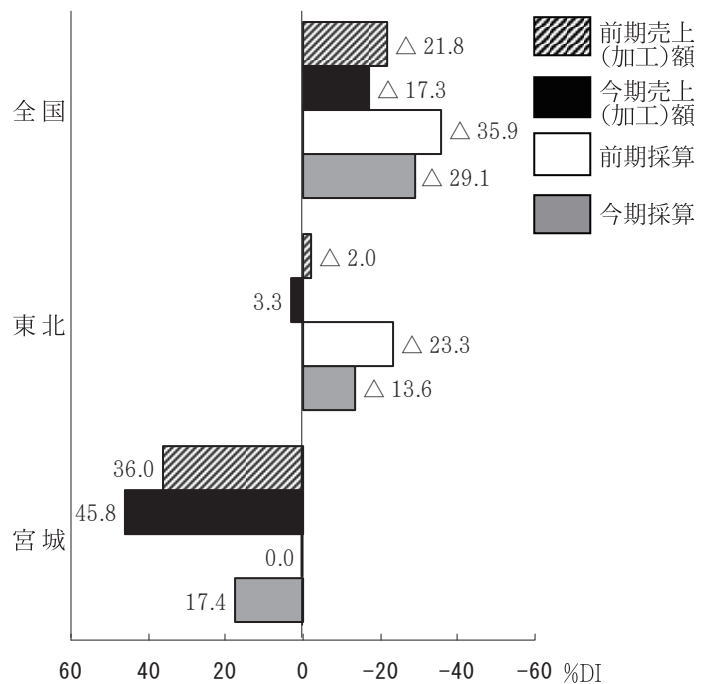
図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国・東北・宮城ともに完成工事(請負工事)額D I、採算D Iともに改善傾向にあるなか、特に宮城は復興需要により材料価格の上昇や人材不足に悩みながらも復興需要に支えられ、完成工事(請負工事)額D I 45.8 (前期 36.0) ト 9.8 ポイント、採算D I 17.4 (前期 0.0) と 17.4 ポイント向上させた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



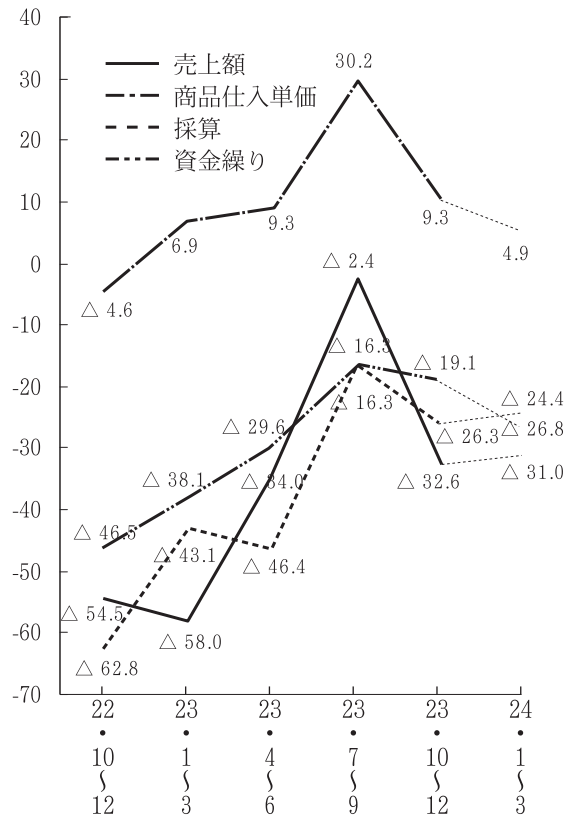
### (3) 小売業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

宮城の小売業は、売上額DIは△32.6（前期△2.4）で30.2ポイント悪化し、資金繰りDIも△19.1（前期△16.3）と2.8ポイント、採算DIも△26.3（前期△16.3）で10.0ポイント悪化した。

しかしながら、商品仕入単価DIは9.3（前期30.2）で20.9ポイント改善した。

図3-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



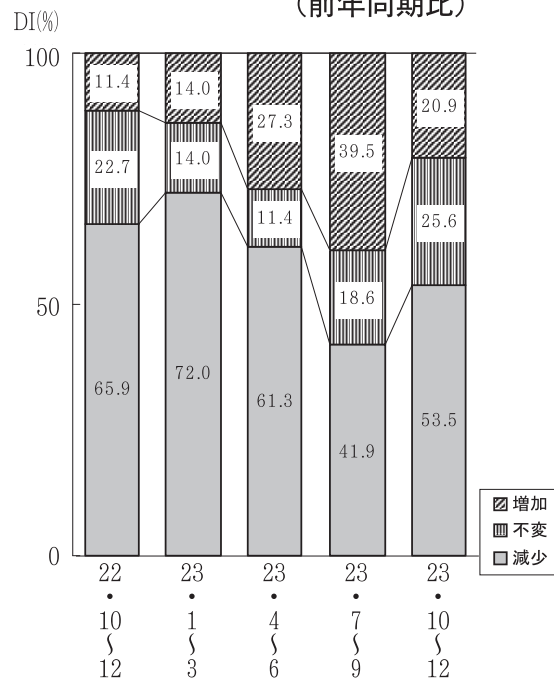
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の20.9%（前期39.5%）と18.6ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は全体の53.5%（前期41.9%）と11.6ポイント増加した。

その結果、売上額DIは△32.6（前期△2.4）と前期比30.2ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況  
(前年同期比)

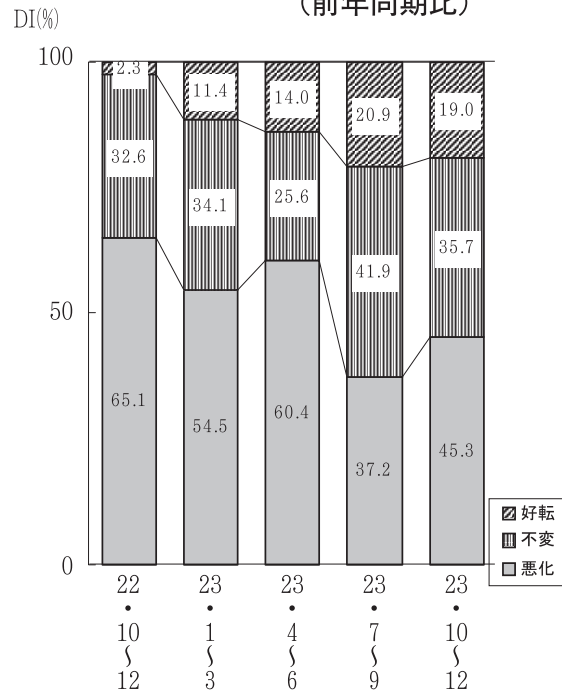


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の19.0%（前期20.9%）と1.9ポイント減少し、「悪化・低下」の回答も全体の45.3%（前期37.2%）で8.1ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△26.3（前期△16.3）となり、前期比10.0ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況  
(前年同期比)



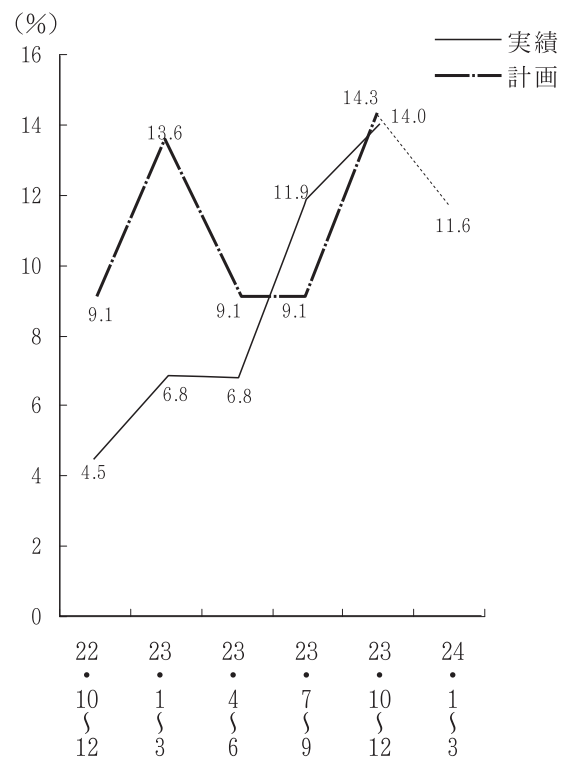
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の14.0%（前期11.9%）で2.1ポイント増加した。

その設備内容は販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業は11.6%で、その内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設を想定している。

図3-4 設備投資の状況

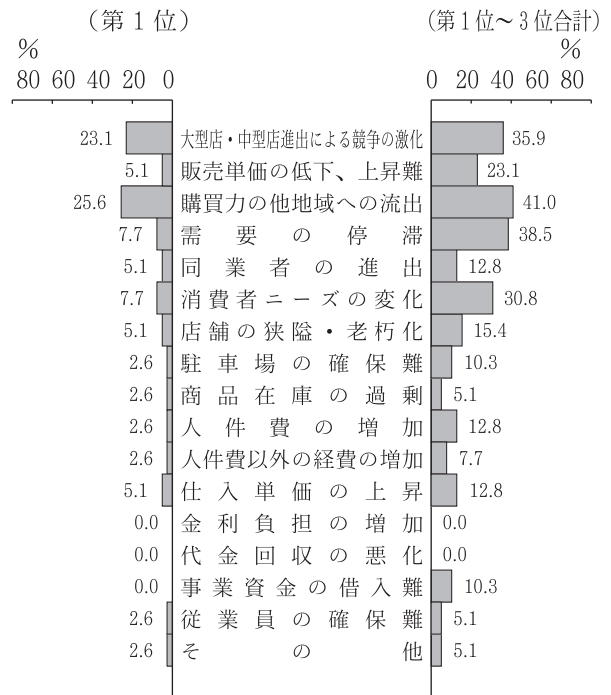


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「購買力の他地域への流出」(25.6%)、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」(23.1%)、そして「需要の停滞」、「消費者ニーズの変化」が7.7%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「購買力の他地域への流出」(41.0% (複数回答以下同じ))、次いで「需要の停滞」(38.5%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(35.9%)、「消費者ニーズの変化」(30.8%)、「販売単価の低下、上昇難」(23.1%)、と続いた。

図3-5 経営上の問題点

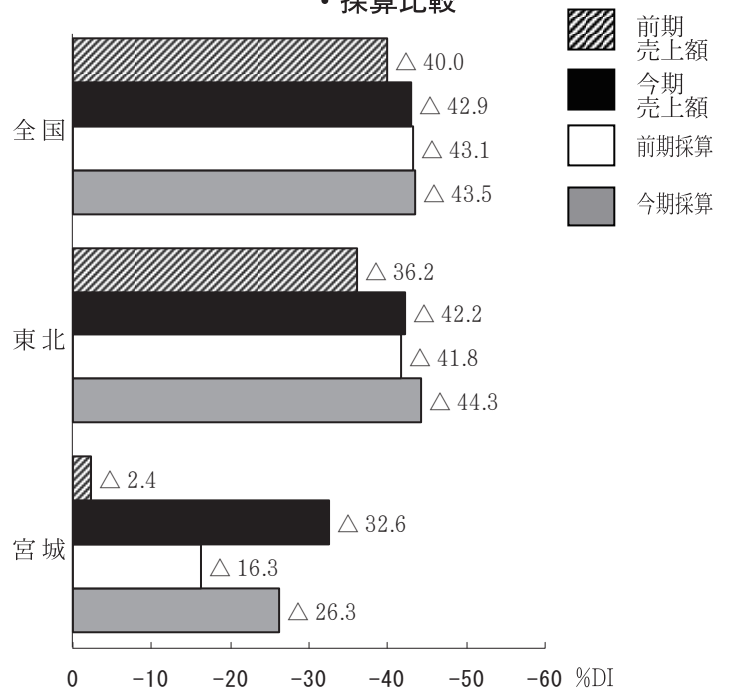


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城全て悪化傾向となり、特に宮城は30.2ポイントと大幅に悪化し△32.6となったが、結果として全国を10.3ポイント、東北を9.6ポイント上回った。

採算DIについても同様であり、宮城は10.0ポイント悪化し△26.3となったが、結果として全国より17.2ポイント、東北を18.0ポイント上回った。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



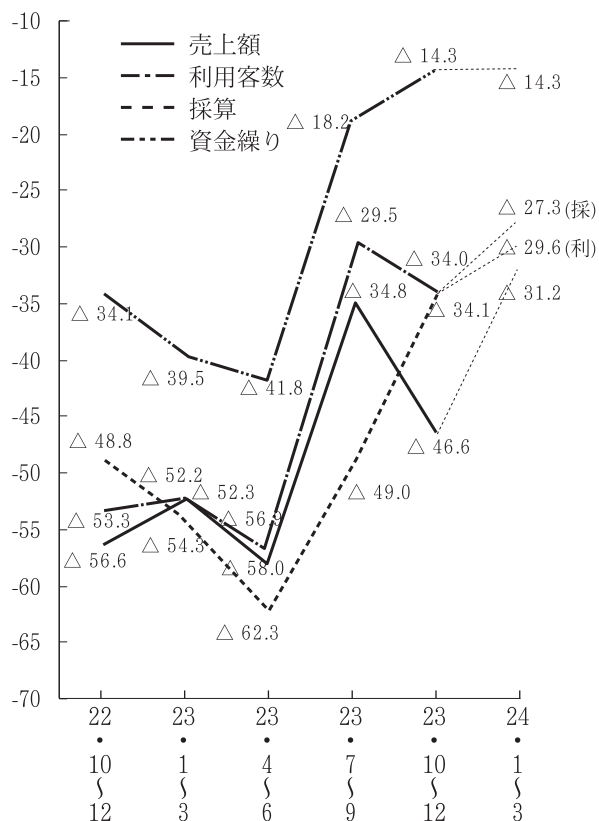
#### (4) サービス業の動向

##### ①主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは△46.6（前期△34.8）で11.8ポイント、利用客数D Iも△34.0（前期△29.5）で4.5ポイント悪化した。

また、資金繰りD Iは△14.3（前期△18.2）と3.9ポイント改善し、採算D Iも△34.1（前期△49.0）と14.9ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



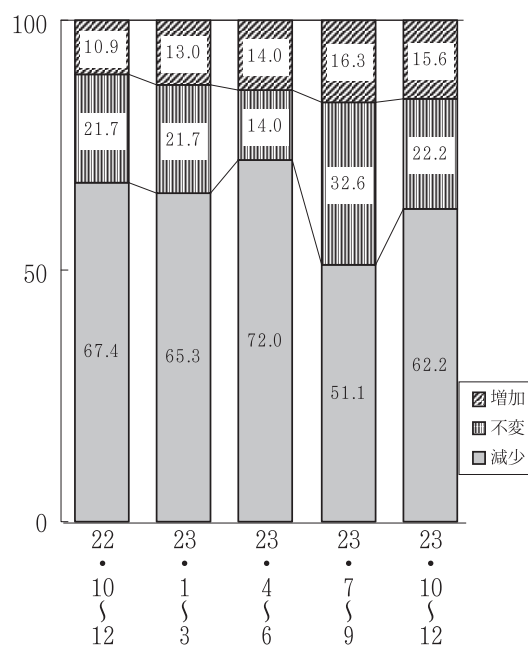
##### ② 主要景況項目別状況

###### (a) 売上（収入）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の15.6%（前期16.3%）で0.7ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は62.2%（前期51.1%）で、11.1ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは△46.6（前期△34.8）で前期比11.8ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況  
(前年同期比)

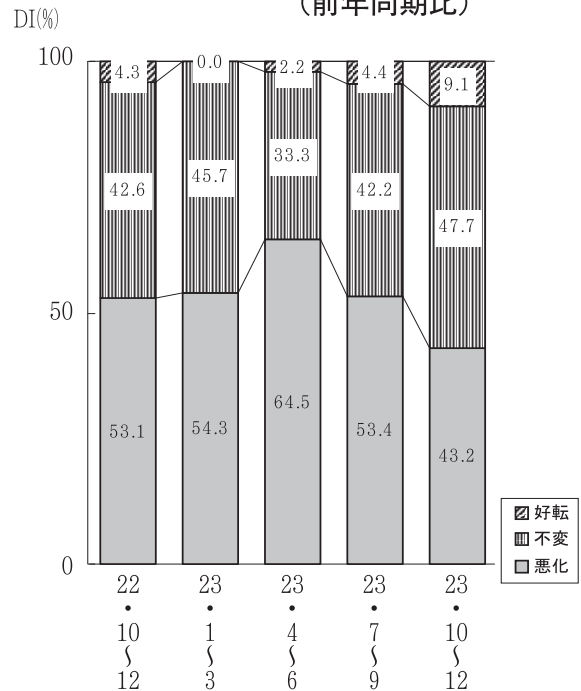


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の9.1%(前期4.4%)で4.7ポイント増加し、「低下・悪化」と回答した企業は43.2%(前期53.4%)と10.2ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△34.1(前期△49.0)となり、前期比14.9ポイント改善した。

図4-3 採算の状況  
(前年同期比)



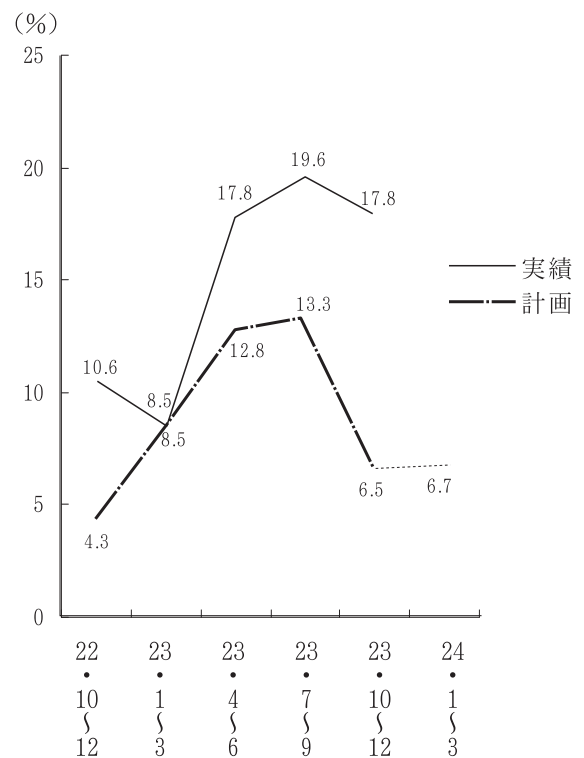
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の17.8%(前期19.6%)で1.8ポイント減少した。

その設備内容は土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、6.7%であり、その内容も土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯設備、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況



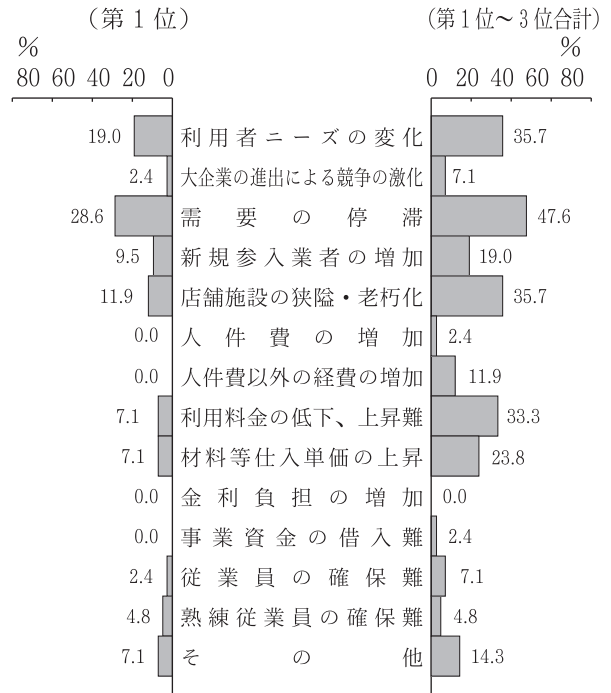


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(28.6%)  
次いで「利用者ニーズの変化」(19.0%)、  
「店舗施設の狭隘・老朽化」(11.9%)、「新  
規参入業者の増加」(9.5%)と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「需要  
の停滞」(47.6%(複数回答以下同じ))次い  
で、「利用者ニーズの変化」と「店舗施設の  
狭隘・老朽化」が35.7%と同率で続き、「利  
用料金の低下、上昇難」(33.3%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点

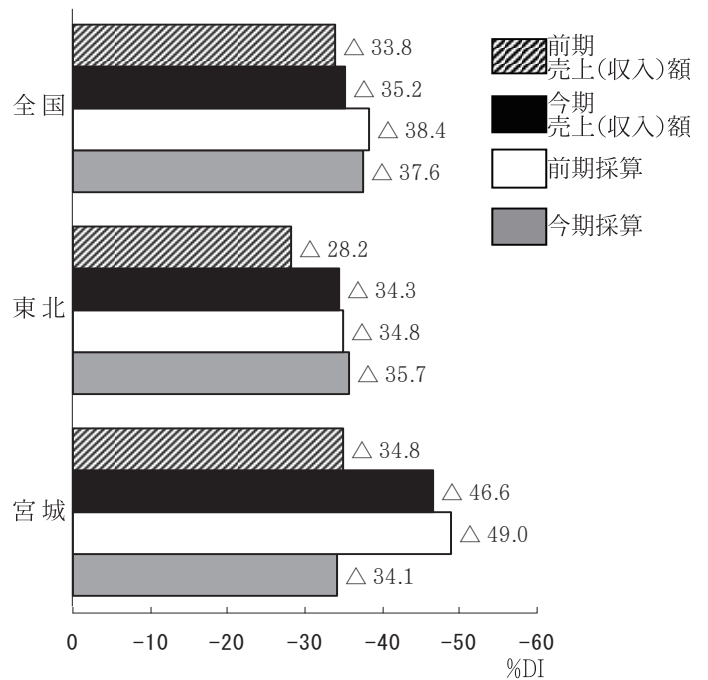


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城はいずれも悪化し、特に宮城は11.8ポイント悪化し△46.6となり全国から11.4ポイント、東北よりも12.3ポイント下回った。

採算DIは、東北は若干悪化したが、全国、宮城は改善した。特に宮城は14.9ポイントと大きく改善し△34.1となり、全国を3.5ポイント、東北を1.6ポイント上回った。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています